

## 成人看護学 I

担当講師(実務経験)	単位	時間数
専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)	1単位	30時間(14回+試験)

学習のねらい: 成人期の対象の特徴と健康レベルに応じた看護の役割を理解する。

学習目標:

1. 成人期の対象の特徴と健康問題を理解する。
2. 成人期の対象の健康を守るための保健・医療・福祉の概要と動向について理解する。
3. 成人期の対象の看護に必要な理論・考え方を理解する。
4. 成人期の対象の健康レベルに応じた看護の役割・機能を理解する。

回	日程	学習内容	方法
1		1.成人看護学とは 2.成人期にある対象の理解①～成人(大人)とは～	講義・演習
2		成人期にある対象の理解② ～成人期にある人の発達課題と発達危機	
3		成人期にある対象の理解③ ～成人を取り巻く社会環境と成人の生活～	
4		成人期にある対象の理解④ ～成人の学習の特徴 アンドラゴジー～	
5		成人の保健問題の動向と関連要因	講義 グループワーク
6		成人期にみられる保健問題と対策①	
7		成人期にみられる保健問題と対策②	
8		成人期にある対象の健康レベルに応じた看護の機能・役割の理解	講義
9		健康レベルに対応した看護と看護実践に必要な理論 ①生命危機状況 ②生活行動障害 ③疾病コントロール ④予後不良	講義 事例学習
10			
11			
12			
13			
14			
15		試験	

評価	筆記試験: 80点 授業中の課題: 20点
使用テキスト	テキスト ①ナースングラフィカ23巻成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版 ②国民衛生の動向 2018/2019 厚生統計協会  参考文献 佐藤栄子ほか: 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研

担当講師(実務経験)
専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)
看護師(慢性呼吸器疾患看護認定看護師)
看護師(皮膚排泄ケア認定看護師)

学習のねらい：

生命(健康)の危機的状況から生活を取り戻す時期にある対象を理解し、生命維持および生活の回復に向けての援助を学ぶ

<学習目標>

1. 生命(健康)の危機的状況から健康を取り戻す時期にある対象を理解する
2. 周術期における看護の役割・機能を理解する
3. 肺切除術を受ける患者の看護を理解する
4. 急性心筋梗塞患者の看護を理解する
5. 人工肛門造設術を受ける患者の看護を理解する

回	日時	主題	内容	方法	担当	日付 実施印
1		生命(健康)の危機的状況から健康を取り戻す時期にある対象の理解	1. 生命(健康)の危機的状況と対象の健康問題 2. 外科的治療の歴史と近年の動向と看護 3. 周術期とは 4. 周術期各期と看護の役割	講義		
2		周術期の看護	1. 手術前看護 外来通院中から入院まで 入院から手術当日まで	講義 ①		
3	2. 手術中看護 手術室入室から退室まで 術中患者の生命管理・安全管理		講義 ①			
4	3. 手術後患者の看護 手術侵襲と生体反応 術後の身体状況と予測される合併症の予防		講義 ①			
5	4. 集中治療が必要な患者の看護 1) 集中治療室の環境 2) 集中治療が必要な患者の特徴 3) 患者の観察とアセスメント		講義 ①			
6		肺切除術を受ける患者の看護	1. 肺がんにて肺葉切除術を受ける患者の看護 事例学習① *術前アセスメントと看護計画 低圧持続吸引器使用中の看護  ☆呼吸器解剖生理小テスト	講義 GW 演習 ①②③④		
7						
8						
9		急性心筋梗塞患者の看護	1. 急性心筋梗塞にて手術適応となった患者の看護 事例学習② 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション時の看護 *成人看護学実習の急性期看護記録を 使ってみよう ☆循環器解剖生理小テスト	講義 GW 演習 ①②③⑤		
10						
11						
12		人工肛門造設術を受ける患者の看護	1. 大腸がんで人工肛門造設術を受ける患者の看護 事例学習③ 対象の発達課題の達成状況 *関連図を書いてみよう  ☆消化器解剖生理小テスト	講義 GW 演習 ①②③⑥		
13						
14						
15		試験				

評価 筆記試験：100点

\*マークは成人看護学実習時の記録用紙を使用します

使用テキスト

- ① 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
- ② 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
- ③ 疾患別 看護過程の展開 第4版 学研

参考テキスト

- ④ 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院
  - ⑤ 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院
  - ⑥ 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学④ 医学書院
- 看護学生のための解剖生理よくわかるBOOK めが加ル社 など

成人看護学Ⅱ-B [生命危機状態]

担当講師(実務経験)	単位	時間
専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)	1単位	30時間

学習のねらい: 生命危機状況にある対象に対し生命維持及びセルフケアの再獲得(生活の回復)に必要な看護を学ぶ

学習目標:

1. 生命危機状況から健康を取り戻す時期にある対象を理解する。
2. 生命危機状況から健康を取り戻す時期にある対象の看護。

回	日時	主題	学習内容	方法/場所
1		生命危機状況にある対象	生命危機状況とは 生命危機状況にある患者・家族の特徴	講義
2		生命危機状況にある対象の看護	生命危機状況時の看護と看護理論	講義
3			全身管理と日常性への看護～ICUの看護～	講義
4			呼吸を整える援助 一時吸引を受ける患者の看護	講義/演習
5				演習
6				演習(技術チェック)
7				
8			脳出血患者の看護	入院から治療までの看護
9		脳血管攣縮期の看護		講義/演習
10		回復期の看護		講義/GW
11		心筋梗塞患者の看護	発症・入院から治療までの看護	講義
12			心臓カテーテル検査の看護～検査前・検査中～	講義
13			心臓カテーテル検査の看護～検査後～	講義
14			冠状動脈バイパス術を受ける患者の看護	講義/GW
15			心臓リハビリテーションについて	講義/GW
		試験		

評価	筆記試験:80点 技術評価:10点 授業中の課題:10点
使用テキスト	専門Ⅱ成人看護学7脳・神経 医学書院
	専門Ⅱ成人看護学3循環器 医学書院
参考テキスト	病気がみえる2循環器 メディックメディア

回生	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	講義回数
	成人看護学Ⅲ	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)	1	30時間	15回

### 学習のねらい

生活行動に障害をもつ（成人期）の対象の健康問題を理解し、健康の保持・増進に必要な看護を学ぶ。

- 学習目標
- 1 生活行動障害のある対象の特徴を理解する。
  - 2 生活行動障害が成人期の対象に及ぼす健康問題を理解する。
  - 3 生活行動障害のある対象の看護の目的を理解する。
  - 4 リハビリテーションにおける看護の役割を理解する。
  - 5 生活行動に障害のある対象に必要な援助技術を習得する。

回数	日付	学習内容	方法
1		生活行動に障害をもつ対象の特徴を理解する。 ・生活行動障害とは ・国際生活機能分類（ICF） ・生活行動障害のある対象の健康問題 ・生活行動障害が成人期の対象に及ぼす影響の理解	講義
2		脊髄損傷患者の看護 ①基礎知識	講義
3			GW
4			
5			
6		脊髄損傷患者の看護 ②アセスメント ③関連図 ④看護診断 ⑤看護計画 「# 褥瘡リスク状態」 ⑥手順表作成（陰部洗浄）	講義
7			演習
8			GW
9			
10			
11		運動機能障害者の援助 ・膝伸展下肢挙上運動（SLR）・大腿四頭筋等尺性収縮運動（セッティング）・リフター操作 ・廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる（看護技術学習ノートp26） *VTR視聴:リハビリテーション医学 Vol.6脊髄損傷、脊損患者のトランニング *DVD視聴:動画で学ぶ脊損のリハビリテーション	
12		生活援助の実践（陰部洗浄） グループによる発表 発表後、全体討議 ・陰部の清潔保持の援助ができる。（看護技術ノートp32）	演習
13			講義
14		感覚障害のある患者の看護 ・視覚障害のある患者の歩行介助 ・聴力障害のある患者	講義 演習
15		試験（筆記試験70点 課題30点）	
教科書		成人看護学概論（Novelle Hirokawa） 系看 専門Ⅱ 成人看護学（1）成人看護学総論・成人保健（メヂカルフレンド社） 系看 専門Ⅱ 成人看護学（10）運動器（医学書院） QOLを高めるリハビリテーション（医歯薬出版） NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018—2020（医学書院）  看護過程に沿った対症看護（学研） 疾患別看護過程の展開（学研）	

授業科目／ 単位	成人看護学Ⅳ ／1単位（30時 間）	担当講師  （実務経験）	専任教員(成人看護領域臨床実務 経験有) 看護師(糖尿病看護認定看護師)
対象学生／時 間			
学習ねらい：	生涯にわたって疾病コントロールが必要な対象の健康問題を理解し、セルフケア能力の 向上に 必要な看護を学ぶ。		
学習目標	1. 生涯にわたって疾病コントロールが必要な対象を理解する。 2. 疾病コントロールが必要な看護を理解する。		

授業概要

構成と担当：

	日程	学習内容	担当者
1		疾病コントロールが必要な対象 疾病コントロールが必要な対象 に使用される看護理論やモデル	
2		疾病コントロールと看護の役割	
3		糖尿病患者の看護 経過と看護 の特徴	
4		糖尿病患者の看護過程①	
5		糖尿病患者の看護過程②	
6		糖尿病患者の看護① 自己管理指導	
7		COPD患者の看護 経過の特徴 と看護	
8		COPD患者の看護過程① 事例学 習	
9		COPD患者の看護過程② 事例学 習	
10		糖尿病患者の看護② 自己管理指導 インスリン注射	
11		COPD患者の看護過程③ 事例学 習	
12		糖尿病患者の看護③ 自己管理指導 ・インスリン注 射	
13		肝硬変患者の看護 経過の特徴と 看護	
14		肝硬変患者の看護過程①事例学習	
15		肝硬変患者の看護過程②事例学習	
		試験 まとめ 筆記 70点 課題30点	

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	時間	単位	回数
	成人看護学V	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 看護師(がん性疼痛看護認定看護師) 看護師(がん化学療法認定看護師)	30時間	1単位	15回・試験

### I. ねらい

1. 予後不良の状態生活を営んでいる成人期の対象とその家族の健康問題を理解し、QOLを高めるために
2. 予後不良の状態生活を営んでいる対象の看護を理解する。

### II. 目標

1. 予後不良の状態にある対象を理解する。
2. 緩和ケアにおける看護の役割、機能を理解する。
3. 白血病患者の看護を理解する。
4. 乳がん再発患者の看護を理解する。
5. AIDS患者の看護を理解する。

### III. 計画

日付	内容	担当	方法	テキスト
1	予後不良と終末期患者 人間にとっての死		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
2	予後不良にある対象の理解 (死の受容過程、全人的苦痛とは)		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
3	スピリチュアルケアとは		講義 VTR視聴	ナシググラフィ「緩和ケア」
4	白血病患者の看護 経過の特徴と看護 *ゴール設定中の課題を出します		講義	医学書院「血液・造血器」 NANDA-I看護診断
5	白血病患者の看護過程①(事例学習)		講義 GW	医学書院「血液・造血器」 NANDA-I看護診断
6	白血病患者の看護過程②(事例学習)		講義 GW	医学書院「血液・造血器」 NANDA-I看護診断
7	乳がん終末期患者の看護 経過の特徴と看護		講義	医学書院「女性生殖器」 NANDA-I看護診断
8	乳がん終末期患者の看護過程①(事例学習)		講義 GW	医学書院「女性生殖器」 NANDA-I看護診断
9	予後不良患者の治療 ~がんの治療 (化学療法、放射線療法)		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
10	乳がん終末期患者の看護過程②(アセスメント)		講義 GW	医学書院「女性生殖器」 NANDA-I看護診断
11	がん性疼痛緩和ケアその①		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
12	がん性疼痛緩和ケアその②		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
13	輸血療法とは		講義 VTR視聴	メヂカルフレンド「基礎看護技術II」
14	エイズ患者の看護 代替療法		講義	医学書院「アレルギー、膠原病、感染症」
15	試験			

\*電子辞書を持っている人は持参してください(言葉の意味や血液検査データ値を調べることがあります)

### IV. 評価 : 筆記テスト80点、課題20点で評価する

### V. 参考文献: 適宜紹介

## 授業概要

授業科目/単位	老年看護学 I / 1 単位 (30 時間)	担当講師 (実務経験)	専任教員 (老年看護領域臨床実務経験有)
対象学生/時期	(1 年生) 後期		
学習目標	1. 老年看護の対象と老年看護の目的について理解する。 2. 老年者を取り巻く保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。		
授業計画	学習内容	備 考	
第 1 時	1. 老年期とは 1) 老年期の定義 2) ライフステージ 3) 老年期の発達課題 4) 老年者の生活史と生活観 5) 老年者の生き甲斐と QOL	講義	
第 2 時 ～第 4 時	2. 老化現象 1) 身体的変化 ①呼吸と循環 ②消化・吸収 ③排泄 ④内分泌 ⑤体力・運動能力 ⑥脳神経 ⑦感覚・知覚 2) 精神的変化 ①情緒的变化 ②人格の変化 ③記憶の変化 3) 社会的変化  4) 老化の要因	課題説明 グループワーク	
		グループワーク	
		発表	
第 5 時	3. 疾病の特徴	講義	
第 6 時	4. 老年看護の基本 1) 老年看護の基本姿勢 2) 老年看護活動の特徴 5. 老年観 高齢者のための国連原則	講義  プリント課題	
第 7 時 ～第 9 時	6. 老年者の安全管理 1) 転倒・転落防止 2) 身体拘束防止 3) 虐待防止	グループワーク	
		グループワーク	
		発表	
第 10 時 ～第 11 時	7. 高齢社会の動向 1) わが国の人口高齢化の特徴 2) 老年者の動向と課題 (有訴者率・医療費) 3) 平均寿命の国際比較 4) 老年者の生活の特徴	講義	
		講義	
第 12 時 ～第 13 時	8. 社会保障の動き 1) 国民年金 2) 老人福祉法 3) 老人保健法 4) ゴールドプラン 5) 新ゴールドプラン 6) ゴールドプラン 2 7) 介護保険法 8) 高齢者医療確保法	グループワーク	
		発表	
第 14 時	9. 老年看護の展開 問題解決型から目標志向型への転向	講義	
第 15 時	まとめ・試験		
評価の方法	筆記試験 (90 点) と授業態度・課題の提出 (10 点) 課題：冬期休暇中に課題に取り組む。レポートの内容・提出方法については講義時に説明する。		
教科書	北川公子他：系統看護学講座 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向		
参考文献	講義中に随時紹介する。		
その他	グループワークで使用する教材については事前に指示する。		

### 授業概要

授業科目／単位	老年看護学Ⅱ／1単位（15時間）	担当講師(実務経験)	専任教員(老年看護領域臨床実務経験有)
対象学生／時期	1年生 後期		
学習目標：加齢現象・生活障害に応じた老年看護の方法について理解する。			
授業計画	学習内容	備考	
第1・2時	A. 老年者の生活機能について—老年者疑似体験	講義・演習 (疑似体験) 課題1：レポート 「老年者疑似体験を行って」	
第3・4時	B. 食事への援助 加齢が食に与える影響とケアの方法	グループワーク・発表	
	C. 生活リズムを整える援助 1) 日常生活を支える基本的活動 2) アクティビティケア 3) 入眠・睡眠を促す援助 ①高齢者の睡眠の特徴 ②良質な睡眠を促すケア	講義 課題2：レポート 「睡眠への援助」のレポート提出 1. 入眠・睡眠を意識した日中活動の援助 2. 患者の睡眠状況のアセスメント 3. 基本的な入眠を促す援助方法	
第5時	D. 転倒予防 1) 転倒事故 2) 転倒予防	講義	
	E. 排泄への援助 1) 老年者の排泄機能 2) 失禁ケア (1) おむつの種類と特徴 (2) 主な尿失禁用具と使用方法	実験 紙おむつ・尿取りパッドにはどのくらいの水分が吸収できるか考えてみよう	
第6時	F. 清潔・身だしなみへの援助 1) 老化と皮膚機能 2) 清潔援助の方法 3) 口腔ケア（義歯の取り扱い） 4) 衣生活への援助	講義	
第7時	G. コミュニケーション 1) 聴力障害の特徴 2) 難聴のある高齢者とのコミュニケーションの方法	講義・耳栓	
評価の方法	課題の提出（10点）と筆記試験（90点） 筆記試験：2019年 4月 実施予定		
教科書	北川公子他：系統看護学講座 老年看護学 医学書院 山田 律子他：生活機能からみた老年看護過程＋病態生活機能関連図、医学書院		
参考文献	講義中に随時紹介する。		
その他	グループワークで使用する教材については事前に指示する。		



## 授業概要

授業科目/単位	老年看護学Ⅲ/1単位(30時間)	担当講師 (実務経験)	専任教員(老年看護領域臨床実務経験有) 看護師(認知症看護認定看護師)
対象学生/時期	2年 前期		
学習目標	1. 高齢患者の看護過程展開の基本を理解する。 2. 認知症について理解し、QOLを高めるための看護の方法を理解する。		
授業計画	学習内容	備考	担当者
第 1 講	1. 老年者の病気の特徴 2. 治療が高齢者に与える影響 A. 薬物療法と看護 1) 吸収・分布・代謝・排泄の変 2) 老年者に多く使われる薬剤の 副作用	持参; 治療薬マニュアル	
第 2 講	B. 手術療法と看護 1) 術前のリスク管理 2) 術後合併症の予防	配付; 加齢と術後合併症	
第 3 講 4 講 5 講	3. 老年者データベースアセスメント 1) 高齢者にとってのアセスメントと意義(機能的健康パターン) 2) データベースアセスメントの視点 ①気になるデータのアセスメント ②持てる力のアセスメント	グループワークと発表 持参; ゴードン博士の看護診断アセスメントの配布; 老年看護学Ⅱ実習記録用紙	
第 6 講 7 講	4. 老年看護過程の展開 1) 大腿骨頸部骨折患者のデータアセスメント 2) 関連図 3) フォーカスアセスメント	配付; 看護過程演習資料 持参; 第5講の発表資料	
第 8 講 9 講	5. 高齢者へのアクティビティケア 音楽療法、集団レクリエーション、回想法、 リアリティオリエンテーション、 集団レクリエーション 音楽療法	配付; パワーポイント資料 グループワーク時の参考図書(DVD含む)はその時に紹介します。	
第10講 11 講	6. 生活機能障害のアセスメントの維持期医療(介護老人保健施設 のケアの視点	持参; 生活機能から見た老年看護過程 医学書 配付; 老年看護学Ⅰ実習記録用紙(事例入り)	
第12講 13 講 14 講	7. 認知症看護 1) 認知症の病態・診断・症状 2) 認知症高齢者のアセスメント 看護の動向と関わり 3) 社会保障制度	パワーポイント資料	
評価方法	授業態度・課題の提出(20点)と筆記試験(80点)にて評価します。 筆記試験の配点: ○○(20点) ○○(60点)		
教科書	北川公子他: 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 山田 律子他: 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 水野 裕: 実践パーソン・センタード・ケア 認知症を持つ人たちの支援のために、ワールドプランニング		
参考文献	講義中に随時紹介しますが、授業概要の〔備考〕を参照し準備して下さい。		
その他	演習・グループワーク等で使用する教材については事前に提示します。		

## 老年看護学Ⅳ 授業概要

授業科目/単位	老年看護学Ⅳ/1単位(30時間)	担当講師 (実務経験)	専任教員(看護師臨床実務経験有) 看護師(摂食・嚥下障害認定看護師)
対象学生/時期	2年生 後期		
授業のねらい	1. 紙上事例を通し、施設入居者の看護過程が理解できる。 2. 日常生活の自立やQOLを高めるための基本的な老年看護技術について理解できる。		
授業計画	学習内容	備考	
1回目	1. 老年看護過程演習 オリエンテーション 事例：介護老人保健施設に入所している高齢者 脳梗塞後の生活機能障害 嚥下障害 構音障害 右半身マヒ 感情失禁	老年看護学実習Ⅰ記録用紙 事例の確認  課題1(グループ)	
2回目	データベースアセスメント(生活機能に焦点を当てる)	①データベースアセスメント	
3回目	ケアニーズの考察について	②ケアニーズの考察	
4回目	成果の発表 まとめ 提出課題の説明		
5回目	2. 老年看護技術 A. 片麻痺患者の身体可動性を高める援助 ①車いすへの移乗の援助 ②拘縮予防のための良肢位保持 看護技術学習ノートP22(NO1)P25(NO7)	演習(実習室) 課題2(個人) 手順表作成(車いす移乗)	
6回目	B. おむつ交換の援助 ①臥床患者・座位患者のおむつ交換 ②失禁ケア・皮膚粘膜の保護	演習(実習室)	
7回目	C. 医療安全 転倒・転落事故防止 身体拘束と看護倫理	教室 課題3(個人) 医療安全レポート	
8回目	B. おむつ交換の援助(技術練習) 看護技術学習ノートP21(NO6.NO7)記載	演習(実習室)	
9回目	D. 老化現象を考慮した移動への援助(松葉づえ・一本杖・歩行器)	演習(教室・体育館)	
10回目	老年看護技術チェック(おむつ交換) 看護技術学習ノートP21(NO6.NO7)記載	課題4(個人) 技術チェック	
11回目	E. 高齢者のターミナルケア		
12回目	E. 摂食・嚥下に関するアセスメント技術 ①摂食・嚥下のメカニズム ②摂食・嚥下に関するフィジカルアセスメント	演習(教室) 準備：舌圧子 氷水10ccシリンジ ペンライト <b>コップ 手鏡 移診器</b>	
13回目	F. 摂食嚥下訓練 ①簡易的嚥下機能評価 ②直接訓練(食事援助)の方法 ※フィジカルアセスメントの復習を含む	演習(視聴覚・実習室) 氷水 注射器 ごみ袋 10ccシリンジ 準備： <b>フリンorゼリー お茶 スプーン</b> <b>移診器 コップ</b>	
14回目	F. 摂食嚥下訓練 ①間接訓練とは ②間接訓練の方法 ③口腔ケア 看護技術学習ノートP30(NO5)P34(NO12)	演習(視聴覚・実習室) ペンライト 準備： <b>手鏡 エフロン 歯ブラシ コップ</b> <b>手鏡</b>	
15回目	まとめ・試験	↑太字は学生が準備するもの	
評価の方法	筆記試験(80点)および課題(20点)にて評価し、合計60点以上で認定する。 筆記試験の配分は大石60点 廣瀬20点とする。		
その他	1) 学内演習時に使用する物品等については事前に提示する。 2) 技術チェック要領については技術チェック前に提示する。 3) 未達成の学生については授業時間外で再指導を行うが、詳細については技術チェック終了後決定する。		

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅰ (母性看護学概論・ 女性生殖器疾患看護)	専任教員(助産師 臨床実務経験有)	I単位	30時間	15回 (14回+試験・まとめ)

【学習のねらい】

母性看護学の対象と看護の役割を理解する。  
女性生殖器疾患患者の看護を理解する。

【学習目標】

- 1) 母性看護の概念が理解できる。
- 2) 各ライフサイクルにおける母性看護の対象を理解できる。
- 3) 母性を取り巻く社会の変遷と現状が理解できる。
- 4) ライフサイクル各期における健康問題と看護が理解できる。

回数	日付	学習内容	方法・場所	備考
1		ライフサイクルとは —自分の生涯設計—	講義 (教室)	
2		リプロダクティブヘルス・ライツとは	講義 (教室)	
3		セクシュアリティについて考える	講義 (教室)	
4		母性の健康と社会—統計からみた母性看護—	講義 (教室)	
5		母性の健康と社会—母子保健に関する組織と法律—	講義 (教室)	
6		女性のからだのしくみ・女性の心理・社会的発達 各期における健康問題PART①	講義 (教室) グループワーク	
7		各期における健康問題PART②	(図書室・情報処理室)	
8		思春期における健康問題と	講義 (教室)	
9		思春期における健康問題と	講義 (教室)	
10		成熟期における健康問題と	講義 (教室)	
11		更年期・老年期における健康問題と看護	講義 (教室)	
12		女性生殖器疾患看護 (子宮がん・卵巣がん)	講義 (教室)	
13		女性生殖器疾患看護 (乳がん)	講義 (教室)	
14		(仮) 不妊について考える (母性看護における倫理)	講義 (教室)	
試験	【評価方法】			
	課題提出：①個人課題 (10点) ②グループ課題 (10点)			
	試験：筆記試験80点 ( 月 日)			
参考文献	系統看護学講座：母性看護学概論 母性看護学① (医学書院)			
	母性看護学各論 母性看護学② (医学書院)			
	女性生殖器 成人看護学⑨ (医学書院)			
	国民衛生の動向			

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅱ 妊産褥婦及び 新生児期の看護	専任教員(助産師 臨床実務経験有)	I 単位	30時間	15回 (14回+試験・まとめ)

【学習のねらい】

妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の看護を理解する。

【学習目標】

- 1) 妊娠期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 2) 分娩期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 3) 産褥期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 4) 新生児期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 5) 勤労者としてのマタニティサイクルを考える。

回数	日付	学習内容	場所	実施日・印
1		(母性Ⅰ復習テスト5問) イントロダクション～妊娠のしくみと疾患の理解	教室	
2		妊婦の看護(初期から中期にかけて)	教室	
3		妊婦の看護(出産準備と母親役割獲得)	教室	
4		(妊婦の看護復習テスト5問) 事例を通して妊婦の看護を考える①	教室	
5		事例を通して妊婦の看護を考える②	教室	
6		分娩の生理	教室	
7		分娩の種類(誘発分娩・無痛分娩・吸引分娩・帝王切開) 分娩の異常	教室	
8		分娩時の看護	教室	
9		産褥期の体のしくみ	教室	
10		母親役割獲得への援助 母乳育児について	教室	
11		新生児の体のしくみと看護	教室	
12		(褥婦と新生児の看護10問) 事例を通して褥婦の看護を考える①	教室	
13		事例を通して褥婦の看護を考える②	教室	
14		勤労と子育てについて	教室	
試験 まとめ		【評価方法】 課題提出 10点(妊婦・褥婦の アセスメントそれぞれ5点) 課題テスト10点(1/2評価) 試験 筆記試験80点		
参考 文献	系統看護学講座Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学各論(医学書院) (国民衛生の動向) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程(医歯薬出版株式会社) 病気がみえる⑩ 産科(メディックメディア)			

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅲ	医師(産婦人科)	I 単位	15 時間	7 回 (7 回+試験まとめ)

【学習のねらい】

妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい以上を理解する。

【学習目標】

- 1) 妊婦期におこりやすい異常がわかる。
- 2) 分娩期に起こりやすい異常がわかる。
- 3) 産褥期に起こりやすい異常がわかる。

回数	日付	学習内容	備考	方法・場所
1		母性看護学総論		
2		妊娠に関する概説		
3		正常妊娠とは その仕組みと機序		
4		分娩期の看護		
5		異常妊娠について		
6		分娩の異常について		
7		新生児の異常について		
8		試験		
試験	【評価方法】			
	試験 筆記試験			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論・母性看護学各論 (医学書院)			

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅳ (母性看護技術)	専任教員(助産師臨床 実務経験有)	I 単位	30時間	15回 (14回+試験まとめ)

【学習のねらい】

妊娠・分娩・産褥期及び新生児期に必要な看護技術を学ぶ。

【学習目標】

- 1) 妊婦に必要な看護技術が習得できる。      2) 産婦に必要な看護技術が習得できる。  
3) 褥婦に必要な看護技術が習得できる。      4) 新生児に必要な看護技術が習得できる。

回数	目付	学習内容	備考	方法・場所
1		イントロダクション 母性Ⅳ事始め 新生児の観察と援助 ①抱き方・おむつ交換	健康指導ワークテーマきめ	講義・演習 (教室)
2		新生児の観察と援助② バイタルサイン測定・全身の観察・ 黄疸の観察 ドライテクニックデモンストレーション	LearnOテスト1回目(新生児)	講義・演習 (教室・母性実習室)
3		沐浴デモンストレーション 沐浴技術演習	沐浴DVD	講義・演習 (視聴覚室・母性実習室)
4		妊婦の援助の実際① 妊婦健診の介助・骨盤ケア (前期安産教室・妊娠中の注意点・ 妊娠中の栄養)	LearnOテスト2回目 (妊婦の看護) レオポルド触診法  トコちゃんベルト	教室 演習(母性実習室)
5		妊婦の援助の実際② 妊婦体操 乳房と乳頭の観察、直接 授乳の援助  産後の栄養と母乳について		演習 (視聴覚室・在宅実習室)
6		沐浴技術チェック・健康教育指導 ワークGW	技術チェックは半分ずつ実施	チェック：実習室
7		沐浴技術チェック・健康教育指導 ワークGW	終了後ワークのデモを確認	GW:教室・図書館
8		妊婦(産婦)の援助の実際③ 後期安産教室・分娩・入院生活につ いて 呼吸法と補助動作・ツボ刺激・リラ クゼーション		演習 (視聴覚室・在宅実習室)
9		分娩時の観察と援助(パルトグラ ム・CTGの見方)	LearnOテスト3回目 (分娩の看護)	講義(教室)
10		授乳援助(ラッチオンとポジショ ニング・哺乳瓶での授乳)		演習(教室 母性看護実習室)
11		褥婦の看護展開	LearnOテスト4回目	講義(教室)
12		①経膈分娩の事例から ③帝王切開 での分娩の事例から	(褥婦の看護)	
13		健康教育指導ワーク発表		講義講義(教室)
14				
試験	【評価方法】			
	試験 筆記試験80点(12/14) ※TBL(個人テスト)10点 ワーク評価5点 沐浴技術チェック5点			
参考 文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論・母性看護学各論(医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版(医歯薬出版株式会社) 母性看護技術 第2版(医学書院)			

授業科目	担当講師(実務経験)	時間	回数	単位
小児看護学Ⅰ	専任教員 (小児看護領域臨床実務経験有)	30時間	15回	1単位

ねらい 子どもの特性について理解し、子どもと家族を取り巻く社会の課題をふまえ、小児

学習目標  
 1. 子どもの特性について理解できる。  
 2. 子どもにとっての家族の意義について学び、子どものいる家族の発達と機能を理解する。  
 3. 小児看護の目的および、子どもと家族を看護する看護師の役割について理解する。  
 4. 子どもと家族を看護する看護師の倫理的役割について学ぶ。  
 5. 日本の母子保健の現状について理解する。  
 6. 子どもの福祉の理念を知り、児童福祉施策の実践を学ぶ。  
 7. 現代の社会環境の変化とそれが子どもと家族にどのような影響をもたらしているのか学ぶ。

回数	学習内容	必要物品	場所他	日付
1	子ども親についての検討 ～ディベートを通して～ (子どもについての考えを明確にする)	配付資料	教室	
2	子ども親の変遷 (子どもはどのように成長しているか)を教養 人生における子ども時代の意義を考える)	配付資料 冊子	教室	
3	親子関係と子どもの育ち「愛着について」 (昔話・童話・ディズニープリンセスの物語を 通して親子関係について考える)	配付資料 冊子	教室	
4	子どもの面倒をみるのは誰か (ペアレンティングと児童福祉について概略を 学ぶ)	配付資料 冊子	教室	

8月映画「千と千尋の神隠し」上映会 124分（3回目の講義を受けるために視聴必須）

5	子どもの特性① (子ども時代はいつ終わるのか？「子ども」と は何か) ※映画「千と千尋の神隠し」からひもとく「子 ども時代	配付資料 冊子	教室	
6	子どもの特性と育ち① (子どもの遊びから感覚機能と認知機能の関係を 学ぶ)	配付資料 冊子	教室	
7	子どもの特性と育ち② ～言語獲得～ (子どもは家庭で〇〇を学ぶ)	配付資料 冊子	教室	
8	子どもの身体的特性① 感覚機能や認知機能と密接につながる運動機能 の変化について、他の哺乳動物と比較しながら 学ぶ	配付資料 冊子	教室	
9	子どもの身体的特性②～成人との比較を通して ～ 「循環器系・呼吸器系・消化器系」	配付資料 (ワークブック) 冊子	教室	
10	子どもの身体的特性③～成人との比較を通して ～ 「腎泌尿器系・感覚器系・脳神経系」	配付資料 (ワークブック) 冊子	教室	
11	児童福祉・母子保健の実践 ～事例を通して考える～	配付資料 冊子(電子・目で 見る児童福祉2018)	教室	
12	児童福祉・母子保健の実践 ～事例を通して考える～	配付資料 冊子(電子・目で 見る児童福祉2018)	教室	
13	子どもを取り巻く現代社会の課題 児童虐待について	配付資料 冊子	教室	
14	子どもを取り巻く現代社会の課題 子どもの貧困について	配付資料 冊子	教室	

評価：筆記試験とレポートおよび授業の参加状況を鑑みて評価します。

<参考文献> 参考文献・参考資料は、適宜授業の中で紹介する。

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
小児看護学Ⅱ	専任教員 (小児看護領域臨床実務経験有)	1	15	7回(試験1回)

- 学習目標 健康な子どもの成長発達を促進するための基本的な看護を理解する。
- 1) 子どもの摂食機能や身辺自立の発達過程を知り、発達をふまえた食事の援助について学ぶ。
  - 2) 幼児期の子どもの発達を知り、基本的生活習慣の獲得に向けての援助を理解する。
  - 3) 子どもにおこりやすい事故とその特徴を知り、子どもの安全を守るための看護について理解する。
  - 4) 学童期・思春期の子ども健康課題を知り、子ども自ら保健行動を促進する基本的な援助を理解する。

	学習内容	学習ポイント/キーワード	
1	事例1) 乳児期の子どもへの食事援助 どのような離乳プロセスを進めたらよいか母親に伝えることを想定してグループ学習する。 事例2) 学童期の子どもへの食事援助 事例をふまえ、どのような離乳プロセスを進めたらよいか子どもと母親に伝えることを想定してグループ学習する。	事例1 活用する既習の内容 乳児期の摂食機能の活用・離乳食とは 新規学習事項 子どもにとっての栄養の意義・ 離乳食の進め方、調理の工夫	
2	他の発表を聞いて学びを共有する。	事例2 活用する既習の内容 学童期の発達課題 新規学習事項 学童期の栄養の意義・食育 肥満度の評価	
3	乳幼児期の事故防止について 乳幼児期各年齢に応じて起こりやすい事故の統計学的な外観をふまえ、防止策についてはグループ学習し、発表会で学びを共有する。	活用する既習の内容 乳幼児期の発達の特徴 新規学習事項 家庭の中で起こりやすい子どもの事故の種類、原因、防止策	
4	予防接種・学校保健 行政が進めている子どもへの保健活動を知り、具体的な子どもの年齢に応じた健康課題について講義にて学ぶ。 看護師の果たす役割については各自考えレポート課題とする。	活用する既習の内容 乳幼児期・学童期の発達課題 児童福祉法・母子保健法 新規学習事項 母子保健のための具体的取り組み、予防接種・学校保健の取組	
5	事例3) 幼児期の生活習慣の進め方(排	事例1	
6	お漏らしを繰り返し、トイレトレーニングを進めることに悩んでいる母親へ援助することを想定してグループ学習する。 事例4) 幼児期の生活習慣の進め方(睡眠共働き親の大人時間に合わせて生活リズムを送っていた子ども。発達段階に応じ睡眠時間確保について親に提案することをグループ学習する。 事例5) 思春期の生活習慣の進め方(睡眠朝が起きられなくて学校を休みがちになりはじめた後期学童期の子どもを想定して親と子どもに援助することを想定してグループ学習する。 他の発表を聞いて学びを共有する。	活用する既習の内容 幼児期の排泄の発達 新規学習事項 トイレトレーニングの進め方 事例2 活用する既習の内容 幼児期の発達課題 新規学習事項 幼児期の睡眠の特性・覚醒と睡眠の生理 事例3 活用する既習の内容 思春期の発達課題 新規学習事項 思春期の睡眠の特性・覚醒と睡眠の生理	
7	グループ学習の総括を下記の視点で講義にて学習する。 子どもの保健行動の発達 親や家庭の役割 行政の取り組み「健やか親子21」		

<評価> 規定の授業時間3分の1出席をしていることを前提に下記の項目で評価する。

- ①毎回の授業後レポート
- ②講義4回目課題レポート
- ③講義終了後の課題レポート



授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
小児看護学Ⅲ	専任教員(小児看護領域臨床実務経験有) 医師(小児科)	1単位	30時間	15回

ねらい	子どもの発達の特徴をふまえ、小児各期に生じやすい健康問題を理解
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胎内環境より発症する先天異常について理解する。</li> <li>2. 子どもが罹患する感染症について理解する。</li> <li>3. 子どもの手術の特徴を知り、手術を要する健康障害を理解する。</li> <li>4. 心身障害について理解し、必要な看護を理解する。</li> <li>5. 急性期にある子どもの特徴と看護について理解する。</li> <li>6. 慢性期にある子どもと家族を知り、慢性疾患について理解する。</li> </ol>

回数	講師	学習内容	日付	
1		先天異常と疾患をもつ新生児①(染色体異常・分娩損傷・代謝異常)		
2		子どものアレルギー疾患 (気管支喘息・食物アレルギー)		
3		子どもの悪性新生物 (診断と治療概要・白血病・脳腫瘍・網膜芽腫・ウィルムス腫瘍・神経芽腫・骨肉腫)		
4		腎・泌尿器疾患 (泌尿生殖器の奇形・ネフローゼ症候群・糸球体腎炎・腎不全・尿路感染症)		
5		子どもの循環器疾患(先天性心疾患)		
6		子どもの血液疾患(川崎病・血友病・貧血)		
7		子どもの消化器疾患 (口蓋裂・食道閉鎖症・幽門狭窄症・鎖肛・胆道閉鎖症・腸重積)		
8		子どもの代謝性疾患と内分泌疾患 (先天代謝異常・下垂体疾患・甲状腺疾患先天性副腎過形成症・糖尿病)		
9		子どもが罹患する主な感染症① (麻疹・風疹・突発疹・水痘・手足口病・ムンプス・インフルエンザ・百日咳・破傷風・ブドウ球菌感染症・急性胃腸炎・普通感冒)		
10		子どもが罹患する主な感染症② (麻疹・風疹・突発疹・水痘・手足口病・ムンプス・インフルエンザ・百日咳・破傷風・ブドウ球菌感染症・急性胃腸炎・普通感冒)		
11		子どもの事故・外傷と看護 子どものBLS		
12/13/14		あいち障害者フライングディスク大会 会場：愛知県体育館/名古屋市中区丸の内 (地下鉄名城線「市役所」徒歩5分)		
15		子どもの事故・外傷と看護 子どものBLS		

評価	方法：筆記試験 時期：筆記試験は授業終了後
----	--------------------------

<使用テキスト>  
奈良間美保他編：系統看護学講座専門23小児看護学(2)小児臨床看護各論 第11版医学書院2010年

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
小児看護学Ⅳ	専任教員 (小児看護領域臨床実務経験有)	1 単位	30時間	8回

ねらい：健康問題を持つ子どもと家族の反応や、対処行動について理解し、健康問題を持つ子どもの看護特徴を理解できる。

- 目標：1. 疾病・障害が子どもとその家族に与える影響を理解し、その看護について学ぶ。  
 2. さまざまな健康段階にある子どもの特徴と看護について理解する。  
 3. さまざまな症状をしめす子どもの特徴と看護について理解する。  
 4. さまざまな状況にある子どもの特徴と看護について理解する。  
 5. 健康問題を持つ子どもの生活援助技術について理解する。  
 6. 健康問題を持つ子どもの診療の補助技術について理解する。

回		学習内容	方法	備考
1	急性期にある子どもの特性と看護展開 その1	～事例から学ぶ急性期の看護～ ロタウイルス腸炎を罹患した乳児	グループ ワーク	配布資料と テキスト
2	急性期にある子どもの特性と看護展開	～事例から学ぶ急性期の看護～ 川崎病のを罹患した幼児 アデノウイルス感染症を罹患した乳児	講義	配布資料
3	急性期にある子どもへの看護展開 (事例)	不慮の事故時の対応 子どもへの心肺蘇生	講義 演習	テキスト 配布資料
4	慢性期にある子どもの特性と看護展開	1. 気管支喘息を罹患している学童期 2. 糖尿病Ⅰ型を罹患している思春期	講義	テキスト 配布資料
5	重症心身障害の概念	1. 定義と発生原因 2. 障害を持つ子どもの権利 3. 重症心身障害の子どもの身体的特徴	講義	配布資料
6	重症心身障害の子どもに対する援助	1. 呼吸 2. 食事 3. 医療的ケアとは	講義	配布資料
7	重症心身障害の子どもに対する援助	1. ボジショニング 2. ユニケーション	講義	配布資料
8	重症心身障害児と家族への支援	1. 前から新生児までの家族支援 2. ICUとGCU 3. 心身障害児施設と療育	講義	配布資料
	疾病・障害を持つ子どもと家族の看護	1. 症状を示す子どもの特徴と看護 2. 終末期にある子どもの特徴と看護 3. 疾病・障害の受容過程と理解の仕方 4. 疾病・障害や入院に伴う影響と対処 5. 小児外来看護の特徴と看護の役割 6. 小児外来での看護の実際	講義	テキスト 配布資料
	バイタルサイン測定	1. 子どもを援助するときの基本的な考え方 2. 子どもにとってのバイタルサイン 3. バイタルサイン測定の実際	講義 演習	テキスト 配布資料
	プレパレーション	1. プレパレーションとは 2. プレパレーションツールの意義と展開方法 3. 看護上の問題「恐怖」を持つ模擬患児への	講義	テキスト 配布資料
	与薬の看護抑制と酸素吸入	1. 輸液療法を行う子どもへの援助 2. 与薬(経口・吸入)を受ける子どもへの援 3. 採血時の抑制・固定方法 4. 酸素吸入時の援助方法	講義 演習	テキスト 配布資料
	低出生体重児の看護	1. 低出生体重児の特徴と健康問題 2. 低出生体重児の看護の実際	講義	テキスト 配布資料
	プレパレーションの実際	模擬患児へのプレパレーションの展開 (採血を行う患児・バイタルサイン測定・輸液療法を行う患児・酸素療法を行う患児)	発表	テキスト 配布資料

試験：筆記試験100%

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅰ	専任教員 (精神看護領域臨床実務経験有)	1単位	30時間	15回(試験)

### I. ねらい

精神看護の対象と目的を理解し、社会に求められる看護の役割を理解する。

### II. 目標

1. 精神看護の目的・対象を学ぶ。
2. 精神保健医療と看護の成り立ちから現在までの変遷を理解する。
3. 看護に必要な基礎的理論を学ぶ。
4. 精神看護の役割と展望を理解する。

### III. 計画

	日時	内容	方法
1		・精神看護の目的 ・精神看護の対象・場	講義
2		・精神看護に関連する保健統計 ・適応・防衛機制について①	講義 GW
3		・適応・防衛機制について② ・精神医療の変遷①	GW 講義
4		・精神医療の変遷②	GW
5		・精神医療の変遷③ ・精神医療と看護に関連する法律①	発表 講義・GW
6		・精神医療と看護に関連する法律②	発表
7		・看護理論 人間関係論 セルフケア理論	講義
8		・ストレスコーピング理論 ・危機理論	講義
9		・精神看護における患者—看護師関係	講義 DVD視聴
10	/	・精神保健医療チームに関わる職種の役割と協働 ・人権と権利擁護 ・インフォームドコンセント	講義
11	/	・障害者総合支援法に基づくサービス体系とは①	講義 GW
12	/	・障害者総合支援法に基づくサービス体系とは②	発表 講義
13	/	・司法精神医学と看護	講義
14	/	・「目で見える精神看護 Vol3. 病院から地域社会へ」レポート ・まとめ	DVD視聴 講義
15	/	試験	

### IV. 評価 筆記テスト100点で評価する

### V. 教科書 武井麻子他：精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院 武井麻子他：精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院 坂田三允：心を病む人の看護 中央法規

### VI. 参考文献 適宜紹介

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅱ	専任教員(精神看護領域臨床実務経験有) 非常勤講師(臨床心理士・産業カウンセラー実務経験有)	1単位	15時間	7回(試験1)

【学習のねらい】

精神の健康の保持増進に影響をおよぼす要因と看護の方法を理解する。

【学習目標】

1. 精神の健康と基本概念が理解できる。
2. パーソナリティの発達とライフサイクルにおける精神の危機が理解できる。
3. 精神の健康保持をサポートするサービスが理解できる。
4. 精神保健と看護の課題を考えることができる。

日付	日時	内容	方法	日付/実施
1		1. 精神の健康とは 2. 人間と心の諸活動[1] 1) 人格と気質 2) 人格の心理検査	講義	
2		1. 人間と心の諸活動[2] 3) 人格の心理検査 2. 家族と健康 1) 家族内コミュニケーションのゆがみ 2) 家族のなかの役割関係 3) システムとしての家族 4) 家族と感情表出	講義 ※グループワークの課題を伝えます	
3		1. 心のしくみと人格の発達に関連する諸理論 1) 精神分析モデル 2) 成長発達モデル 2. 危機介入とは	発表 講義	
4		1. 精神保健の領域 1) 広義の精神保健(家庭、学校、職場) 2) 狭義の精神保健 2. 職場における精神保健 1) 精神保健に影響する労働形態および労働環境の変化 2) 職場における精神保健上の問題 3. 入院生活のストレス、看護師特有のストレス	講義	
5		1. 精神保健サービスと他職種との連携 2. 精神科訪問看護師の役割	講義 DVD ※DVD「精神科訪問看護(30分)」視聴后感想・学び	
6		1. 精神の健康に関する普及啓発活動[1] ・こころのバリアフリー宣言 ・健康日本21 ・健康増進法 ・新健康フロンティア戦略 ・労働者の心の健康の保持増進のための指針	講義 GW	
7		1. 精神の健康に関する普及啓発活動[2]	発表・講義	
8		試験		

【使用テキスト】

武井 麻子他：精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院  
 外口 玉子他：精神看護の展開 精神看護学[2] 医学書院  
 国民衛生の動向 2017/2018年度版

【評価】

筆記テスト90点、課題5点、DVD感想文5点で評価する。

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅲ	専任教員 (精神看護領域臨床実務経験有) 医師(精神神経科)	1単位	15時間	7回(試験1)

【学習のねらい】

精神を障害された人の看護を行うために必要な疾患・病態像・書状・治療の特徴を学ぶ。

【学習目標】

1. 精神を障害された人の主な症状と状態がわかる。
2. 主な精神疾患と派生する問題がわかる。
3. 主な精神機能の検査がわかる。
4. 主の治療と援助の実際が分かる。

	日時	内容	方法	日付/実施
1		1. 精神医学概論	講義	
2		2. 統合失調症について(病態と主な症状)	講義	
3		3. 統合失調症について(検査や治療)	講義	
4		4. 統合失調症について(治療と派生する問題)	講義	
5		5. 精神の健康と障害について	講義	
6		6. 精神疾患の概念・主な精神疾患	講義	
7		7. 統合失調症を患っている患者の看護	講義	
8		試験		

【使用テキスト】

武井 麻子他：精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院  
 外口 玉子他：精神看護の展開 精神看護学[2] 医学書院  
 国民衛生の動向 2017/2018年度版

【評価】

筆記テスト90点、課題5点、DVD感想文5点で評価する。

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅳ	専任教員 (精神看護領域臨床実務経験有)	2単位	30時間中 14時間	15回中 7回 試験1

### Ⅰ. 学習目標

- 1) 精神を障がいされた人の看護過程の特徴を理解する。
- 2) 社会復帰に向けた生活技能訓練の実際を理解する。

### Ⅱ. 計画

回数/日付	学習内容	学習方法
1	精神看護師の役割	講義
2	精神看護におけるコミュニケーション技法	講義
3	患者-看護師関係とプロセスレコードの活用	講義
4	精神科看護の実際 ①症状別看護 ②日常生活における参与技術	講義
5	精神科看護の実際 ①薬物療法を受ける患者の看護	講義
6	精神科看護の実際 ①精神保健福祉法 ②社会復帰を助ける	講義
7	精神科看護の実際 ①行動制限と看護 ②環境の調整	講義
8	統合失調症とは 当事者研究「水飲みがとまらない」	講義 DVD視聴
9	セルフケア理論 オレム・アンダーウッド理論とは	講義
10	統合失調症患者(慢性期)の看護過程 ①情報の整理・アセスメント	講義 GW
11	②統合アセスメント	講義
12	③看護計画	GW
13	④看護計画に沿った実践(ロールプレイング)	GW 発表
14	SST(生活技能訓練)とは テーマをもとにロールプレイング 精神看護学実習に必要なコミュニケーション	GW 発表 講義 GW
15	試験	

Ⅲ. 評価 50点(試験20点、課題提出30点)で評価する。

### Ⅳ. 教科書

武井 麻子他: 専門Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院

外口 玉子他: 専門Ⅱ 精神看護の展開 医学書院

坂田 三允: 心を病む人の看護 中央出版

【参考文献】1) 田中美恵子: 学生-患者のストーリーで綴る実習展開. 精神看護学第2版. 医歯薬出版、2015

2) 公益財団法人浅香山病院看護部: 初めての精神看護学. メディカ出版、2018

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
成人看護学実習 I	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：生命危機状況（周術期又は過大侵襲による急激な内部環境の変化）にある成人期の対象とその家族に対して、生命危機状況からの回復に向けての看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	主 題	学 習 内 容	方 法
1. 生命危機状況にある対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 生命危機状況にある対象の健康上の課題を判断し、解決に必要な看護を計画できる。 3. 生命危機状況にある対象の治療・処置の特徴や対象の術後や回復の経過に影響を及ぼす要因を捉え、早期回復・社会復帰に向けた看護が実践・評価できる。 4. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。	1 生命危機状況にある成人期の対象の理解	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (必要な観察項目：術前や発症前の健康状態、生活状況、既往歴、治療経過、術式、麻酔の種類、手術による生体の変化、侵襲の大きさ、身体侵襲下にある病態、生命徴候、創傷の状態、疼痛コントロール状況、治療・処置の内容・方法、術後および受傷後の合併症・対象および家族の心理変化) ②生命危機状態・過大侵襲時の経過と生体反応	
	2 生命危機状況にある成人期の対象の健康ニーズ	①看護過程展開技術 (看護診断(例)：術後回復遅延リスク状態 感染リスク状態他、健康上の課題解決に向けた看護計画の立案) ②生命危機状況にある成人期の対象の健康ニーズ (術後や受傷後の生命徴候への影響・二次障害や合併症予防・外科的侵襲や過大侵襲からの早期回復・術後や受傷後の疼痛・生命危機状況からもたらされる苦痛・患者が受ける治療処置から引き起こされる生活行動障害・早期の社会復帰・患者や家族の不安や恐怖) ③看護アセスメントにおける思考 ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(理論：ムーアの分類、危機理論、成人期の発達課題)	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
	3 生命危機状況にある成人期の対象の健康ニーズ充足に向けての援助	①健康ニーズに応じた援助技術 ・治療や処置の管理や補助技術 ・疼痛や身体的苦痛緩和ケア ・情緒的支援技術(ボディイメージへの変化や不安恐怖への緩和ケア) ・コミュニケーション技術 ・教育的指導技術 ②生命危機状況にある対象者の健康ニーズに対応する他職種の役割と機能 ③他職種との連携の意義と在り方 ・チームで協力する力 ④生命危機状態、過大侵襲時の治療環境 ・生命危機状態・過大侵襲時に必要な治療・処置 酸素療法、輸液療法、ME機器類の管理、ドレーン、各種侵襲ラインの実際	
	4 看護者としての社会人基礎力習得	①リフレクションを用いた自己評価方法 ②生命危機状況にある対象者への看護の意味と価値 ③学習マネジメントの在り方 ④グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 ⑤援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど)	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
成人看護学実習Ⅱ	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：生活行動に障害のある成人期の対象とその家族に対して、生活行動の障害の回復・維持、その人らしい生活を支える看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	1. 生活行動に障害のある対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 対象の健康上の課題を判断し、解決に必要な看護を計画できる。 3. 機能障害や治療困難な状況にある対象の治療・処置の特徴や対象の生活行動に影響を及ぼす要因を捉え、生活の自立・再構築、社会復帰または生命力の消耗を最小限にするための看護が実践・評価できる。 4. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。		
	主 題	学 習 内 容	方 法
1	生活行動に障害のある成人期の対象の特性	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (身体機能障害の部位と程度、機能障害と生活行動の関連、疼痛や苦痛のコントロール状況や自覚症状、治療・処置の内容、生活環境、残存機能とセルフケア能力、対象や家族の障害や死に対する受容状況・心理状況、家族・地域の協力体制や支援システムなど) ②身体機能障害の部位と程度(関節可動域評価/R OM、筋力評価法/MM T、日常生活行動および活動評価法/A D L) ③疼痛や苦痛のコントロール状況や自覚症状、治療・処置の内容、生活環境、残存機能とセルフケア能力	
2	生活行動に障害のある成人期の対象の健康ニーズの理解	①看護過程展開技術 (看護診断(例)：身体可動性障害 セルフケア不足 活動耐性低下 身体外傷リスク状態 皮膚統合性障害 安楽障害など、健康上の課題解決に向けた看護計画の立案) ②生活行動障害にある成人期の対象の健康ニーズ (機能回復・維持、日常生活行動の拡大や再獲得、心身の安楽や症状緩和、予測される二次障害・合併症の予防、社会復帰、最小限の生命力の消耗、患者・家族の心理的安定、残存機能の維持、障害受容) ③看護アセスメントにおける思考 ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(理論：障害受容、死の受容、成人期の発達課題)	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
3	生活行動に障害のある成人期の対象の健康ニーズ充足に向けての援助	①健康ニーズに応じた援助技術 ・リハビリテーション看護技術 ・緩和ケア技術(痛みのマネジメント、ペインコントロール、リラクゼーション技法、緩和的生活援助、代替療法、グリーフケア) ・治療や処置の管理や補助技術 ・教育指導技術、情緒的支援(コーチングスキルやカウンセリングスキル、傾聴、エンパワメント) ②生活行動障害にある対象者の健康ニーズに対応する他職種の役割と機能 ③他職種との連携の意義と在り方 ・チームで協力する力 ④生活行動障害にある対象者の治療環境や社会資源	
4	看護者としての社会人基礎力習得	①リフレクションを用いた自己評価方法 ②生活行動に障害のある対象者への看護の意味と価値 ③学習マネジメントの在り方 ④グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 ⑤援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど)	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			



授 業 科 目	担 当 講 師 (実務経験)	単 位	時 間
成人看護学実習Ⅲ	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：慢性的経過をたどる成人期の対象とその家族に対して、疾病の悪化防止と合併症予防をしながら生活に満足できるようセルフマネジメント（自己管理）能力を高める看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学 習 目 標	1. 疾病コントロールを必要とする対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 対象の健康上の課題を判断し、解決に必要な看護を計画できる。 3. 症状増悪、疾病コントロール不良な状況にある対象の治療・処置の特徴や対象の症状・疾病コントロールに影響を及ぼす要因を捉え、自己管理・社会復帰に向けての看護が実践・評価できる。 4. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。		
	主 題	学 習 内 容	方 法
1	疾病コントロールを必要とする成人期の対象の理解	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (症状の変化、病状の経過、合併症の徴候と症状、症状の増悪が生活に及ぼす影響、治療計画、治療・処置内容、生活習慣、日常生活・社会生活の規制、協力体制・支援システムなど) ②疾病の理解と受容状況 ③病状と疾患の自己管理についての認識と取り組み状況	
2	疾病コントロールを必要とする成人期の対象の健康ニーズ	①看護過程展開技術 (看護診断(例)：非効果的健康管理 健康管理促進準備状態 など) 健康上の課題解決に向けた看護計画の立案 ②疾病コントロールを必要とする成人期の対象の健康ニーズ (治療と生活を統合させる自己管理、予測される二次障害および合併症予防、社会復帰、苦痛の緩和、症状コントロール、患者・家族の心理的安定、健康の再構築に向けて新習慣への適応) ③看護アセスメントにおける思考 ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(理論：慢性疾患の特徴、病みの軌跡、自己効力感、アンドラゴジー、コンプライアンス、アドヒアランス、コンコダダンス、行動変遷ステージモデル、トランスセオレティカルモデル(理論横断モデル、成人期の発達課題))	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
3	疾病コントロールを必要とする成人期の対象の健康ニーズ充足に向けての援助	①健康ニーズに応じた援助技術 ・セルフマネジメント教育技術(コーチングスキルやカウンセリングスキル、傾聴、エンパワメント) ・緩和ケア技術 ・治療や処置の管理や補助技術 ②疾病コントロールを必要とする対象者の健康ニーズに対応する他職種の役割と機能 ③他職種との連携の意義と在り方 ・チームで協力する力 ④疾病コントロールを必要とする対象者の治療環境と社会資源	
4	看護者としての社会人基礎力習得	①リフレクションを用いた自己評価方法 ②生活行動に障害のある対象者への看護の意味と価値 ③学習マネジメントの在り方 ④グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 ⑤援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど)	

評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。  
単位認定は、基礎看護学実習Ⅰ～②と合わせて算定される。

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
老年看護学実習 I	専任教員(老年看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(介護老人保健施設勤務看護師) 実習指導者(リハビリテーション病院勤務看護師)	2	90時間 ①介護老人保健施設 60時間 ②リハビリテーション病院 30時間

実習目的：老年期にある対象を総合的に理解し、さまざまな健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	学 習 内 容		方 法
1. 回復期および慢性期の医療及びケアを受ける高齢者の特徴が理解できる。 2. 回復期および慢性期の医療及びケアを受ける高齢者との関わりや日常生活援助を通し、対象の特徴に応じた看護の方法に理解する。 3. チーム医療およびチームケアにおける看護師の役割を理解できる。 4. 高齢者の家庭復帰に必要な他職種連携の在り方について理解できる。 5. 高齢者のパーソンフッドを考慮した関わりについて考えることができる。			
介護老人保健施設	要介護状態にある高齢者の特徴と生活の理解	①介護老人保健施設の概要 (施設の目的・機能・入所要件・サービスの内容・介護保険制度の概要) ②高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 ③観察技術・生活行動評価法 生活機能障害の程度	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
	高齢者の生活機能の障害に応じた生活支援の実際	①要介護状態にある老年者の健康ニーズ ②介護老人保健施設での看護過程展開の実際 (生活行動情報のアセスメント・ケアの方向性・長期目標・短期目標・ケア計画の根拠) ③摂食・嚥下障害のある老年者への食事介助 ④胃瘻からの経管栄養 ⑤健康ニーズに応じた生活援助技術(排泄・清潔・体位・更衣など) ⑥診療の補助技術	
	介護老人保健施設における看護師の役割	①他職種との連携(ケアカンファレンスの実際)とチームケアを行う際の看護師の役割 ・QOL(心身の機能低下、その人らしさの維持、自立の維持、合併症予防)ふ	
	高齢者の特性に応じた対応のあり方	①高齢者を尊重した対応(礼節を守る、言葉の選択、生活史への理解や傾聴) ②パーソンフッドを考慮した対応	
リハビリテーション病院	家庭復帰および家庭生活の維持に向け療養している高齢者の特性	①リハビリテーション病院の特徴 ②入院している老年者の特徴と健康ニーズ (入院の条件・退院率・退院後の生活の拠点・回復期に抱える課題の特徴) ③通所リハビリテーションを受ける老年者の特徴と健康ニーズ ④観察技術・生活行動評価法 生活行動障害評価、環境	
	高齢者の生活の再構築に向けた関わり方の実際	①日常生活訓練の実際(ADL訓練・IADL訓練) ②日常生活の支援の方法・関わり方(自立の支援・安全管理・家族指導) ③多職種連携の方法 ④居宅支援サービス計画書と通所リハビリテーションとの関連	
	老年者の家庭復帰に必要な多職種との連携のあり方	①チーム医療における看護師の役割 ②ケアカンファレンスの意義 (参加者の職種・役割 開催時期による検討内容 治療計画に携わるメンバー)	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
老年看護学実習 II	専任教員(老年看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：高齢者の健康課題を系統的に捉え、健康の回復を支援するための基礎的看護実践能力を習得する。

学 習 目 標	学 習 内 容		方 法
1. 健康障害のある高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 健康障害のある高齢者の健康課題を特定し、解決に必要な看護を計画できる。 3. 治療や加齢現象が心身に及ぼす影響を理解し、対象の状況に応じた援助が実施・評価できる。 4. 高齢者との関わりを通して自己の老年看護観を表現できる。 5. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。			
1 健康障害のある高齢者の理解	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (病態・治療の理解、合併症・二次障害の徴候・症状の予測、生活機能の程度、退院後の生活における課題、多剤投与の影響など) ②老年者のQOLを低下させる影響因子評価 リスクマネジメント(身体機能 認知能力、視聴覚能力、家族機能など評価) ③老いや疾患・障害に対する患者・家族の反応 ④退院調整の有無 サポート体制の状況 ⑤老年看護観の記述		
2 健康障害のある高齢者の健康ニーズ	①看護過程展開技術 (看護診断(例)：転倒・転落リスク状態 嚥下障害 機能性尿失禁 など) 健康上の課題解決に向けた看護計画の立案 ②健康障害のある高齢者の健康ニーズ (日常生活動作の残存機能、皮膚・粘膜の脆弱化、摂食・咀嚼・嚥下障害、意思伝達の障害、老年者に快適な生活ベース・廃用症候群・合併症・二次障害の予防、治療に伴うリスク回避) ③看護アセスメントにおける思考 ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(参照する考え)		1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
3 健康障害のある高齢者の健康ニーズ充足に向けての援助	①健康ニーズに応じた援助技術 ・加齢による変化を支える生活支援(食事介助・スキンケア・失禁ケア・褥瘡ケア・睡眠へのケアなど) ・緩和ケア技術 ・治療や処置の管理や補助技術 ②健康障害のある高齢者の健康ニーズに対応する他職種との役割と機能 ③他職種との連携の意義と在り方 ・チームで協力する力 ④退院後の課題に向けての援助 生活の拠点や役割に応じた援助の方法、継続看護の方法 退院支援の方法(介護支援連携・退院支援計画など)		
4 看護者としての社会人基礎力習得	①リフレクションを用いた自己評価方法 ②生活行動に障害のある対象者への看護の意味と価値 ③学習マネジメントの在り方 ④グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 ⑤援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど)		
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
母性看護学実習	専任教員(助産師臨床実務経験有) 実習指導者(臨床助産師)	2	90時間(8H×病院11日間+7.5h学内)

実習目的：看護を必要とする母性の対象を理解し、看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	1. 褥婦及び新生児の生理的変化、心理・社会的特徴から健康課題を判断し、実践・評価できる。 2. マタニティサイクルにいる対象の特徴を踏まえ、よりよい健康を目指した看護が理解できる。 3. 生涯を通じた女性の健康を促進するための看護の役割が考察できる。 4. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。		
	主 題	学 習 内 容	方 法
1	褥婦及び新生児の特徴理解と健康課題への援助	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (褥婦：分娩状況、子宮復古状況、感染兆候、乳房状態、精神状態 新生児：VS測定、経皮黄疸計、体重、全身の状態) ②アセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考(参照すべき理論や知識：褥婦の退行性変化と進行性変化、母親役割獲得の特徴と推移、マタニティブルーズ、新生児の胎外生活移行状況) ③褥婦および新生児の健康ニーズと援助 ・健康ニーズ 褥婦の分娩後の退行性変化と進行性変化の促進・母子相互作用の促進 新生児の胎外生活適応促進 ・褥婦の身体変化に応じた生活技術、教育的指導技術、コミュニケーション技術	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師(助産師)と打ち合わせ、見学を進める。 5. 看護師(助産師)とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する。 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する。 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 対象への支援内容を見学する。 11. 実践の振り返りを行う。
2	妊婦の生理的変化・心理社会的特徴の理解と看護の実践	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 ②助産外来に通院する妊婦へのアセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考 ③妊婦の健康ニーズと援助(見学) ・母親教室での集団支援	
3	産婦の生理的変化・心理社会的特徴の理解と看護の実践	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 ●産婦：VS測定・陣痛測定・破水の有無、血性分泌物の変化、産痛部位・精神状態・CTG・生活ニーズ充足状況など ●新生児：アプガースコア採点、臍帯処置、身体測定ほか、母子対面の様子など ②アセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考 ③産婦の健康ニーズと援助 ・陣痛と産痛緩和の援助、分娩進行の促進、帝王切開術後のケア	
	生涯を通じた女性の健康を促進するための看護	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (産婦人科外来を受診する女性生殖器疾患) ②アセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考 ③女性の健康ニーズについての考察	
4	看護者としての社会人基礎力習得	・リフレクションを用いた自己評価方法 ・生命危機状況にある対象者への看護の意味と価値 ・学習マネジメントの在り方 ・グループダイナミクスとチームでの共同の在り方	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
小児看護学実習 I	専任教員(小児看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	1	45時間(7.5H×4日間) (8H×1日間 +7H)

実習目的：子どもとその家族を思いやり、子どもが健やかな成長発達を遂げることができるよう、健康のプロセスを支援する看護のあり方がわかる。

学 習 目 標	1) 子どもを身体的・精神的・社会的に統合された生活を営む存在として理解し、その特性を記述できる。 2) 成長発達の特性を知り、健やかな発達を支援する具体的な方法を提案できる。 3) 子どもを尊重し、子どもの特性に応じた対応ができる。		
	主 題	学 習 内 容	方 法
1	障害のある子どもの生活支援	1) 子どもの障害の種類と特性 2) 障害のある子どもの形態的成長・精神運動機能の発達の特性 3) 障害のある子どもの友人・仲間との関わり方と反応 4) 障害のある子どもとの関わりを通して得る子ども観	1) オリエンテーションを受ける 2) 特別支援学校課外イベント(障害者フライングディスク大会)に参加し、大会参加する障害児の支援を実施する。
2	健康な子ども(乳幼児)の生活支援	1) 健康な子どもの形態的成長・精神運動機能の発達 2) 子どもを取りまく物理的環境(保育園の構造や施設設備) 3) 健康な子どもと遊び ①発達段階にあった遊びの種類 ②遊びと成長発達の関連 乳幼児の使っている遊具や玩具、興味関心の度合、集中度、参加度、運動量、体の動き等 ③健康な子どもの遊ばせ方 4) 健康な子どもの友人・仲間、大人との関わり方と反応 5) 健康な子どもの食事行動と食事習慣 ①食事の環境 ②食事習慣としつけ ③食事介助 ④食事の観察 6) 健康な子どもの排泄行動と排泄習慣 7) 健康な発達を促すことを考えることで得る育児観	1) オリエンテーションを受ける。 2) 保育士の指示に従い、ともに保育活動に参加する。 3) ワークブックにもとづき、実習で得た学びをまとめる。
評価：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単位	時間
小児看護学実習Ⅱ	専任教員(小児看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	1	45時間(7.5H×6日間)

実習目的：子どもとその家族を思いやり、子どもが健やかな成長発達を遂げることができるよう、健康のプロセスを支援する看護のあり方がわかる。

学習目標	
1) 子どもを尊重し、子どもの特性に応じた対応について学ぶ。 2) 子どもを身体的・精神的・社会的に統合された生活を営む存在として理解する。 3) 子どもの健康と生活を、環境との関わりと関連付けて考える。 4) 病気や障害を持った子どもの生活上の課題を解決する看護について学ぶ。 5) 子どもをとりまく環境・社会を知り、その中で看護が担うべき役割を考える。 6) 社会人基礎力を身につけ自己研鑽できる能力を養う。	
	学習内容
1	<b>障害のある子どもの生活支援</b> 1) 障害のある子どもの発達の状況 2) 障害のある子どもを取りまく物理的環境(教室やトイレ、玄関など)の構造や施設、椅子や体位補助具などの設備 3) 発達促進のための接し方と遊び ※発達段階や生活年齢・障害のレベルにあった遊びの種類・方法 ※遊びにおけるポジショニング 4) 子どもの仲間、大人との関わり方と反応 コミュニケーションの特徴・表出方法の特徴 5) 子どもの摂食機能に応じた援助方法 (環境・食事時のポジショニング・摂食動作の援助など) 6) 子どもの排泄機能に応じた援助方法 (排泄の環境・排泄時のポジショニング・排泄ケア) 7) 睡眠(睡眠環境の整え方・就眠時のポジショニングなど) 8) 清潔(シャワー浴や部分清拭など整容動作の援助) 9) 活動(移動の援助、車椅子のドライビングや車椅子からの乗降・送迎車の乗降の介助、活動内容に応じた姿勢、体位の保持・安楽性の保持) 10) 医療的ケアの実際 経管栄養・胃婁・気管切開・酸素療法・吸引・輸液療法・導尿
2	<b>健康障害のある子どもの治療と援助</b> 1) 病気の子どもの身体診査の方法 2) 子どもや家族の反応・訴え 3) 子どもの対人関係の取り方の特徴 4) 検査・処置 5) 子どもの安全・安楽への援助
<b>学習方法</b> 1) オリエンテーション 2) 指導者の指示に従って参加見学する。 3) ミーティングに参加する。 4) 自己のビジョンにのっとり学習をすすめ学習の成果をポートフォリオとして綴っていく。 5) 凝縮ポートフォリオを作成して学びをまとめる。	
<b>評価</b> ：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。	

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
精神看護学実習	専任教員(精神看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	実習前オリエンテーション3時間 病棟実習・施設見学87時間 (7時間15分×12日間)

実習目的：生命危機状況（周術期又は過大侵襲による急激な内部環境の変化）にある成人期の対象とその家族に対して、生命危機状況からの回復に向けての看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学 習 目 標			
主 題	学 習 内 容	方 法	
1. 精神を障がいされている人とその家族を理解できる。 2. 精神の障がい生活におよぼす健康上の課題をアセスメントし、必要な生活援助が実施できる。 3. 精神を障がいされている人と看護者との治療的関係形成の仕方を習得する。 4. 精神を障がいされている人を取り巻く治療環境の特殊性を理解できる。 5. 精神を障がいされている人の社会復帰の過程およびサポートする人々の役割を理解できる。			
1 精神を障がいされている人とその家族の理解	1. 精神を障がいされている人の身体的・精神的・社会的特徴 1) 身体症状、精神症状、 2) 生育歴、生活歴、家族歴、発症年齢 3) 既往歴、治療歴、現在の治療内容 4) 治療が身体および精神に及ぼす影響 5) 精神の障がいによる生活上の困難 2. 精神を障がいされている人を取り巻く家族の特徴	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。	
2 精神の障がい生活におよぼす健康上の課題理解と援助	1. 健康上の課題の特定 2. 看護計画立案 3. 日常生活援助の実施・評価 1) セルフケア能力の維持・向上へ向けた介入 2) 発達段階を考慮した介入 3) 自律と自己決定を尊重した介入		
3 精神を障がいされている人と看護者との治療的関係形成	1. 精神を障がいされている人との対人関係の促進 1) 患者—看護者の治療的コミュニケーション 2) 患者—看護学生のコミュニケーションの分析 3) 対人関係促進への援助 4) 他者との関わりを通しての自己洞察		
4 精神を障がいされている人を取り巻く治療環境の特殊性	1. 精神科病院の特徴と安全管理 1) 病院の構造・設備 2) 鍵管理・患者の権利擁護 2. 隔離室入室の対象となる患者と看護		
5 精神を障がいされている人の社会復帰の過程およびサポート	1. 社会復帰への支援システム 1) 社会復帰施設の種類・入所している対象 2) 社会復帰施設で働く人々と看護者の役割 3) 障がい者が地域で生活するための必要な要素 4) 障がい者が働くことを支援するための必要な要素 2. 患者の家族関係とサポート		
評価：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			